

## 地域包括ケアネットワーク No.86

## 津山市のACP普及啓発活動

津山市医師会理事 市場 隆

津山市では、平成30年からアドバンス・ケア・プランニング（ACP）普及啓発に取り組み始めた。平成31年には、ACPの難解なイメージを払拭し、市民がもっと楽な気持ちで自分のこと、家族のことを考えるきっかけとなることを目的として、津山市版ACPを策定した。その骨子は、「まずは話し合いを始め、そして何度も話し合いを重ねることによって自分の中で譲れない大切なこと、本当に望む最後の人生を見つけ、それを皆で共有し実現できるよう支えていく」というものであり、“特に型にとらわれずに話し合いを始める”ということに重点を置いている。津山市版ACPについてはガイドブックを作成し、市役所窓口をはじめに市内460カ所の医療機関・介護保険事業所に配布した。そうして市民のACPへの関心が高まっていく中、我々は次のステップとしてACP支援者の育成に取り掛かることとした。

ACP実践にあたり、本人の望む人生を実現するために医療・ケアについて相談にのり、本人・家族・医療ケアチームとの調整を行うACPファシリテーターの存在は重要であり、それらは医療機関、介護施設等、高齢者と繋がる部署に配置されるのが望ましい。そうすればACPは広く受け入れられるようになり、また適切な支援も円滑に進むと予想される。令和2年度 ACPファシリテーター養成講座をACPの基礎知識を習得する講義、事例紹介、演習という内容で3回行い、48名のACPファシリテーター認定者を産み出した。これらの内訳は、医師・歯科医師・看護師・保健師・ケアマネジャー・ケースワーカー・介護支援員と多岐にわたり、高齢者と接する機会が多い、または高齢者の集まる場所に在籍する者たちばかりである。ACPファシリテーター養成講座は今後も継続する予定であり、またACPファシリテーター認定者の追加研修会もすでに開始している。これらの者が各部署でACPを推進し、被支援者もその家族もACPのメリットを感じたならば、それは他の市民へも伝搬していくことが期待される。

一方、直接市民への働きかけも必要で、本年2月の市民フォーラムでは、新型コロナの影響で入院入所家族と面会も困難という状況を反映してか、ACPへの関心反響は大きくなってきているように感じた。今後も市民フォーラムを含め民生委員や愛育委員を巻き込んだ市民講座も積極的に行っていく予定である。またACPファシリテーターとの繋がる機会を増やすため、かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局を持つように促す発信も必要と思われる計画している。

先のACPファシリテーター養成講座は岡山県医療介護連携体制整備事業の認定を受けたが、そのプレゼンテーションで日本医師会常任理事の江澤和彦先生から、自分の思い・希望をうまく表せない認知症の方のACPをいかに進めていくかについても配慮してほしいとのご意見を頂いた。認知症患者におけるACPに関して本年1月地域包括ケア研修会にて川崎医科大学和田健二教授にご講演をいただいた。認知症の方のACPについては発症前の本人の言葉、生きる姿から代理人が想像して判断、あるいは認知症であってもときにのぞかせる本心を汲み取ることが重要と言われるが、実際には容易なことではなく、結局代理人の判断になってしまうことも珍しくない。しかしACPの研修等に携わり感じた私見では、それは責められるべきことではないと考える。本人の本当の望む人生が送れるのは、もちろん望ましいことであり実現に向けて努力すべきではあるが、結果がそれとは異なるものであっても、本人の幸せを身近な人たちが一生懸命考え悩んだということが重要で、それこそがACPを行うことの意義ではないかと思う。

ACPで本人に携わる人々がその人が望む人生を全うできるように、話し合い、努力支えるという構図が浸透すれば地域包括ケアの実現に近づくと考える。